2020.05.31.今、どう祈るのか？

第二テサロニケ人への手紙１章１１節から１２節

JD ファラグ牧師

おはようございます。ようこそ。「第二テサロニケ」の学びを楽しみにしていました。今日はこの書の学びを再開します。オンラインで見ている皆さんを歓迎したいと思います。教会には人々が来ています。皆さんがここにいる事を知らせませんか？（歓声・拍手喝采）実は今のは、前ぶりみたいなものだったんです。なぜかというと私がまだ慣れていなくて、今後慣れたいと思わないのが、ただカメラに向かって話すことです。皆さんに嫌な思いをさせたくないんです。今は教会の中に人がいるからです。私が皆さんの顔を見ていなくても、悪く思わないでください。本当に。ただ本当に皆さんに会いたかったです。皆さんがここに居る事がとても嬉しいです。「第二テサロニケ 1 章」が今日の箇所です。今日でこの章を終える事になります。少し前の話になりますが、1 章 10 節まで終えました。今日の箇所は 11 節と 12 節です。ではここにいる地元の皆さん、可能であればお立ち下さい。私が読むのに付いてきてください。使徒パウロが、このテサロニケの教会に向けて書いた手紙です。聖霊によってこう書いています。

—II テサロニケ　1：11－

こうしたことのため、私たちはいつも、あなたがたのために祈っています。どうか私たちの神が、あなたがたを召しにふさわしい者にし、また御力によって、善を求めるあらゆる願いと、信仰から出た働きを実現してくださいますように。

—II テサロニケ　1：12－

それは私たちの神であり、主であるイエス・キリストの恵みによって、私たちの主イエスの名があなた方の間であがめられ、あなたがたも主にあって栄光を受けるためです。

一緒に祈りましょう。主よ、あなたの御言葉を感謝します。今日、私たちの前にあるこの箇所に感謝します。私たちが教会として共に集まって、あなたの御言葉を開ける事を感謝します。その際、今日あなたが私たちにご用意下さっている事受け取る為、私たちの心、目、耳を開いてください。主よ、私たちの人生に語って下さるように祈ります。イエスの御名によって。アーメン、アーメン。

どうぞお座りください。ありがとうございます。

今日は祈りについてお話ししたいと思います。具体的には、私たちの祈り方についてで

す。こんにち世界で起きている状況全てを踏まえて、今、どのように祈るのか。今日、私たちの前にあるこの箇所では、使徒パウロは、テサロニケのクリスチャンたちのため、どのように祈ってきたかについて、彼らに手紙を書いています。とても興味深いのは、パウロがどれだけ彼らを愛し、彼らの為に祈っているのかを何度も持ち出すことです。それに取り掛かる前に、ちょっと復習した方が良いと思います。「第二テサロニケ人への手紙」は久しぶりですから。約 1 年経っています。私たちの話ではありませんよ。そんな気はしますけど。パウロが最初の手紙を書いてから約 1 年が経ちました。実際には、それが、パウロが一番最初に書いた手紙でした。パウロが聖霊によって書いた正に最初の書簡です。それがテサロニケの人たちへのものでした。その間、色々な事があったようです。1 通目と 2 通目の手紙の間の一年間に。その中で大きなことは、偽の手紙でした。まるでパウロからの手紙であるかのように、回覧されていたようです。そして多くの問題を引き起こし、混乱を引き起こしていました。理解すべきことは、これが新しい教会であり、彼らは信者になって間もなかったことです。そして彼らは、厳しい迫害と苦難に耐えていました。私がそれを指摘する理由は、困難や苦労にも関わらず、彼らは信仰において成長し、愛にあふれていたからです。しかし彼らはまた、苦難と迫害の中で疲れていました。そのためパウロは、彼らに手紙を書き、励ましとして彼らの為に祈るのです。重要なのは、パウロがかれらのために祈ったという事よりも、パウロがどう祈ったかです。それが今日詳しく見たい事なのです。その理由は、私たち教会が、教会として祈るべきであるだけではなく、人類歴史における前例のないこの時期に、教会のために祈るべきことが適切だからです。以下に続くのは、この 2 節だけを元にしたテンプレートのようなものです。それによって私が励まされたように、皆さんも励まされることを願います。まず 11 節の最初の部分で、パウロが絶えず祈っていたことに注目ください。これは最初に読んだときには、分かり切った事のように思えるかもしれません。つまり全書簡の中で、パウロはいつも絶えず祈る事について語っています。エペソ人への手紙で、彼は自分がいかに絶えず祈っているのかを書いています。彼の書いた手紙の至る所で、、、興味深い事ですね。なぜなら絶えず祈る為には、運転中では目を閉じて手を組めないという事ですから。そうするのは間違いでしょう。ふざけるつもりはありませんが、意味があるんです。要は、祈りとは単に主に語りかける事なのです。正直に言うと、この単純な真実が、創造もしなかったようなかたちで、私の祈りの生活を変えてくれました。本当にそのおかげで全てが変わったのです。私は祈りを非常に複雑にしていました。すごく形式的で仕事みたいになっていました。特権ではなく義務でした。聖書の中で、パウロが絶えず祈るようにと私たちに強く勧めているのを読むと、ますますそうなりました。誰かに罪悪感を抱かせて、ひどく責めたかったら、彼らがどれくらい祈るかを聞けば済みます。私たちの中で、もっと祈る必要のない人がいるでしょうか？「祈り切った」という表現を聞いたことがありますか？「本当に？どうやってしたのですか？」どうやったらできるのか知りたいです。神に大きく用いられた男たちのことを聞きますね。女性もです。彼らは人生の終わりに、こう質問されま

す。良い質問ですよ。「もう一度初めからやり直さないといけないとしたら、違ったやり方でするのは何ですか？」通常その答えが何か分かりますか？「もっと祈るだろう。」です。「それも助けになりません。今突如として私は、もっと罪悪感を感じているんですから。あ～もっと祈らないと！」しかし、ここが大事なところです。祈りとは、一日中、毎日、終日、ただ絶え間なく、意識的に、神と交わり、話をする事だと理解したら、それですべてが変わります。ただ神に語り掛けるんです。何のことでも。主に願うんです。「主よ、お願いです。お店にトイレットペーパーがありますように。」そんなことでも、何についても祈るのです。何事に関してでも神に話すのです。すいません。つい言ってしまいました。
パウロは彼らに言います。「こうしたことのために、、、」これを念頭に置いて、彼とまた彼と一緒にいる人たちは、テサロニケの人たちの為、絶えず祈っているのだと。さて疑問なのは、「何のために？」彼が念頭に置いていた「これ」とは何か？その答えは、問題を引き起こしていたトラブルメーカーたちのことを扱った、その前の箇所にあります。教会内で問題を起こすだけでなく、外部にも、教会に対する迫害をもたらした者たちです。1 章 6 節～10 節で彼が言ったことを聞いてください。
—II　テサロニケ　1：6－神にとって正しいこととは、あなたがたを苦しめる者には、報いとして苦しみを与え、
—II　テサロニケ　1：7－苦しめられているあなたがたには、私たちとともに、報いとして安息を与えることです。（いつ？）このことは、主イエスが、燃える炎の中に、力ある御使いたちとともに天から現れるときに起こります。
—II　テサロニケ　1：8－主は、神を知らない人々や、私たちの主イエスの福音に従わない人々に罰を与えられます。
—II　テサロニケ　1：9－そのような者たちは、永遠の滅びという刑罰を受け、主の御前から、そして、その御力の栄光から退けられることになります。
—II　テサロニケ　1：10－その日に主イエスは来て、ご自分の聖徒たちの間であがめられ、信じたすべての者たちの間で感嘆の的となられます。（皆さんも含まれています）そうです、あなたがたに対する私たちの証しを、あなたがたは信じたのです。

パウロは何と言っているでしょう。「お聞きなさい。私はあなたがたが迫害されているのを知っています。あなたがたがとても大変な厳しい苦悩に耐えている事を知っています。あなたがたが戦いに疲れているのを知っています。しかし神が、最終的な決断を下される日が来ます。そして主が戻って来られたら、それで終わりです。勇気を出しなさい。彼らは報いを受けます。」
正直に言うと、これは私にとって大きな問題でした。特に最近は、世界で起きている事をすべて見ているので。特にこれらの犯罪者、無政府主義者たちに関連して起こっている事で。聖書預言・アップデートでもその話をしましたから、ここで繰り返すことはしませ

ん。でも私はこれを見ていて、、、これを見て、こう言います。「主よ、あなたが最終決断を下されます。最終決定権はあなたにあります。私はただ、あなたに目を向け、あなたを待って、あなたを信頼します。」その日は思ったよりも早く来るからです。そしてこれらのことをしている者たちは、神が裁かれます。なぜか？神は正しいからです。
11 節の 2 文目、パウロは彼らが召しにふさわしい者とされるのを祈ると言います。これに関してはいくらか説明をし、明確にしなければならないでしょう。どうか、パウロが私たちの行いによって相応しいものとされる、と言っているのではないことを理解ください。彼が言っているのは、私たちには皆、クリスチャンとしての召しがあり、私たちが神の召しにふさわしい者であるように祈る責任がある事です。
最近聞かれたのですが、「そのように祈るべきでしょうか？今の全ての状況に関して、そのように祈ればいいのでしょうか？私のお決まりは、”主の祈り“と呼ぶものです。」
実際それは主の祈りではありません。それは実は、私たちの祈りなのです。弟子たちはイエスに、祈り方を教えて下さるよう願いました。そこでイエスは仰います。このように祈りなさい。面白いんですよ。彼らはイエスの祈り方を教えてほしいと頼むのですから。興味深いのは、彼らは説教の仕方を教えてほしいとは頼みませんでした。彼らはイエスに、祈り方を教えてほしいと願いました。その理由が分かりますか？弟子たちは救い主を見ていたからです。頻繁にイエスは、一人になる為出かけて行って、御父の前で、時には夜通し祈られました。弟子たちはそのためにもたらされた力を見て、それを望んだのです。良い事です。イエスは彼らの質問に答えられます。
「祈り方を知りたいのですか？このように祈りなさい。」私たちは皆、その祈りを知っています。実際ある意味、思うに、私たちはそれを知り過ぎていて、ただの丸暗記の形式的な暗唱になってしまいます。その祈りの中に、皆さんに注目してもらいたい部分が 1 つあります。それはイエスが、このように祈りなさいと言われる際、その終わりにあります。
「御国を来たらせたまえ。御心の天になるごとく、地にもなさせたまえ。国と力と栄とは、限りなくなんじのものなればなり。」良い祈り方ですね。「御国を来たらせたまえ。」私は毎日そう祈っています。日に日に悪化していっていますから。「主よ、御国を来たらせたまえ。御心の天になるごとく、地にもなさせたまえ。」それが召しです。それがパウロが言っている事です。
ここで問題になるのは、私たちは如何にして召しにふさわしい者とされ得るか？その答えは同章の 5 節にあります。パウロは言います。これら全てのこと、苦難に耐え、迫害を受ける事、ここが重要です。「それは、あなたがたを神の国にふさわしいものと認める、神の正しいさばきがあることの証拠です。あなたがたが苦しみを受けているのは、この神の国のためです。」一緒に考えてください。特に今日あなたが、とても難しい試練の中にあるならなおさらです。こんにちの世界の状況からして、皆さんの大半ではないにしても、何人かはいらっしゃるでしょう。こんな風に考えたことはありませんか？神は、苦難の杯を飲むことのできる信頼できる人を探しているのだと。神は、御国の為、神のご栄光のた

めに、その苦しみにふさわしい人を探しているのです。
娘のノエルが死んでから、私たちは悲嘆にくれていました。とても辛かったです。主が私に教えて下さったある事が、私を落ち着かせ、言って見れば二度と振り返る事はありませんでした。神は基本的に私に質問を提示されたのですが、その質問はこのような内容でした。「わたしは、女の子を授けるために、母親と父親を探していました。その子は致命的な染色体異常を持って生まれます。医学界では「生命不適合」と説明されます。わたしは、そのような悲痛な杯を飲むのにふさわしいと見なせる人を探していました。人生で一番つらい経験になるでしょう。わたしはあなたを見つけました。しかしもしも、あなたがふさわしいと認められなかったら、わたしは他の誰かを見つけていたでしょう。」私はこう言わざるを得ません。こうして何年も経った今、あの娘を持たなかった場合の私の人生を想像することが出来ません。それが全てを変えたのです。私たちがそのような辛い苦しみと試練にふさわしいと認められたこと、それを受ける者とされたこと。それが全てを変えました。私がそういう視点で見た時、それに対する見方が変わって、悲しみに暮れていた心を癒してくれました。主の御目は、あまねく全地を行き巡り、ご自分の心を全うし、完全に献身し、そのような事にふさわしい人を探しておられることを知って、この女の赤ちゃんが生まれるからと言って、他の親たちを何人見過ごされたでしょう。私は、その女の子は私の赤ちゃんだ、他の誰の子でもない、すごくつらい事ではありましたが、あの女の子の赤ちゃんを授からなかった場合のことを想像することができません。
さてこれで3つ目に入ります。11節の3番目の部分です。パウロは聖霊の御力を求めて祈っていると言っています。私はここでパウロが言っている事は、誇張できるものかどうか分かりません。聖霊の御力に関する事です。彼が、全てを成就させるのは聖霊の御力である、と言っているのに注目ください。つまり、神の御力です。パウロは神の御力を求めて祈っているのです。「御力によって、善を求めるあらゆる願いと、信仰から出た働きを実現してくださいますように。」どういう意味でしょう？パウロが言っているのは、聖霊の御力がなければ、聖霊の実が結ばれないという事です。何も実現しません。聖霊の賜物を強調しすぎて、聖霊の実を犠牲にしてしまうのは、大きな過ちだと思います。これが神が私たちの人生において、実現させようとしておられる事です。神は聖霊の御力によって、それをなされるのです。一番哀れなクリスチャンは、自分の強さと自分の力のエネルギーでクリスチャン生活を送ろうとしている人たちです。不可能です。唯一の方法は、当たり前のように聞こえるかもしれませんが、聖なる生活を送るための唯一の方法は、聖霊の御力によるものです。聖なる生活＝聖なる霊（聖霊）聖霊が私たちに内住し、私たちに力を与えて下さる。それが唯一の方法です。私たちはそのように祈るべきなんです。毎日、一日中、終日。「主よ、私には聖霊の力が必要です。」聞いてください。前にも言いましたが、ああ今日は、賛美出来て凄く良かったですよね。ほ～カラカラに渇いた魂のためのグラス一杯の冷えた水のようです。私は後ろにいて、すごく外れたキーで歌っていて、喜びの声（ジョイフル・ノイズ）だったと思いますが、ノイズだったのは確かです。あ～素晴

らしい。そこでただ主を賛美しながら祈っています。「主よ、私が説教壇に立ったら、」私はちょっと奇妙な事をするんですが、言います。「主よ、私の手が説教壇に当たったら、すぐにあなたが引き継いでください。だってあなたが現れて下さらなかったら、何もなりません。私には聖霊の御力と、油注ぎが必要です。私がこの説教壇の後ろに立つときに。」では聖霊がいなければ、聖なる生活を送る事がどうして可能なのでしょうか。今まで聞いた中で最高の説明があります。確か他でもないチャールズ・スポルジョンの説明だったと思います。これはクリスチャン生活における、聖霊の御力の例を示し、解説するものです。あなたがビーチにいるとしましょう。因みに閉鎖されていません。…またやっちゃいました。すみません。ビーチにカヌーがあります。砂の上にあって、水の中に押し出したいのです。あなたはとにかく、力を振り絞って、力の限り押して、押して、押しまくります。ビクともしません。そこで何人かの兄弟を呼び寄せます。彼らは押して、押して、押して、押して、押し続けます。数センチは動かせるかもしれません。完全に肉だけの力と強さとエネルギーです。でも無理です。水に入りそうにありません。すると突然、潮が満ちてきます。潮が満ちて来ると、小指でそのカヌーを水の中に押し出せるんです。それが聖霊の力です。本土の話で、ここハワイでは無縁ですが、私の古巣ワシントン州では、どうやって電力を得るか知っていますか？水です。彼らはダムを建設します。水の力のためです。水にどれほど力があるか、見たことはありますか？イエスがこう仰ったことを考えてください。「あなたに聖霊の力があれば、あなたの人生は生ける水の激流のようになる。」と。それくらい強力なんです。聖霊の力です。祈るのです。「神よ。私には聖霊の力が必要です。聖霊のバプテスマが必要です。」「あ～牧師さん、来ましたね。ペンテコステ的になってきましたね。」ほらスライドまで消えてしまいました。―(笑)―何でしょう？あ、直った。主よ、ありがとうございます。これは皆さんに思い出してもらうのに絶好の機会かもしれませんね。愛を持ってします。聖書には、ギリシャ語の代名詞が 3 つあって、信者の生活における聖霊の働きを描写しています。ギリシャ語の代名詞は、「エン」失礼言い直します。「パラ」「エン」そして「エピ」です。説明します。ギリシャ語の「パラ」から、英語の「パラリーガル、パラシュート、パラレル」といった単語が由来しています。「横づけになる」です。「エン E-N」は、英語の「イン/in」です。3 つ目ギリシャ語の「エピ E-P-I」からは、英語の「上に/upon」が来ています。はい、聖霊は、私たちの横におられます。私たちがイエス・キリストの救いの知識を得ると、聖霊は私たちの内（in）に入られます。しかし聖霊のバプテスマを受けると、聖霊が私たちの上に臨まれて、私たちに力を与えて下さいます。今日はそこまでにします。どうやら聖霊と、聖霊のバプテスマについての教えが必要になりそうですね。異言のことで拘らないでくださいよ。善意のある超ペンテコステ主義がダメージをもたらしたのは知っています。聖霊のバプテスマを受けている唯一の証拠は異言を話すことだと。まあ、まず第一に、異言で話すことと、知られていない言葉で祈る事には違いがあります。「使徒の働き」の書に入ると具体的に 5 回、聖霊が人々の上に臨んだことが書かれています。彼らの上に＝upon。その

うちの 2 回、あるいは 3 回だったかもしれませんが、この異言が見られたのは、そのうち 3 回だけで、毎回ではありません。つまりすべての人がその賜物を得るわけではないという事です。おや私は、パンドラの箱を開けてしまったみたいですね。箱に蓋をして、最後の話に移ってもいいですか？12 節です。残りの時間はこれに費やしたいと思います。これはデカいですから。他の部分が大事じゃないわけではありませんが、幾人かの方には、これで説明がつくかもしれません。これは祈りに関して、いくつかの疑問の答えになるかもしれません。より具体的には、答えのない祈りについて。12 節でパウロは、神がご栄光を受けられる事に関して彼らに語っています。私たちの祈りの多くが答えられないのはなぜかと聞かれたら、私に言わせると、これが理由でしょう。これが答えです。説明します。私が何か、あるいは誰かのために祈る時、それが最終的に神に栄光を帰さないものならば、それは答えられないでしょう。それがヤコブの言う「悪い求め方」です。彼は言います。「自分のものにならないのは、あなたがたが求めないからです。（ヤコブ 4：2）」あなたが祈って、願っても受けられないのは、悪い動機で願うからです。正しいやり方をしているかもしれませんが、間違ったことを求めているかもしれません。あなたは正しい事をしています。祈っています。でも間違った動機、間違った心、間違った態度で、間違ったものを願っている。なぜならそれは、神の栄光のためではなく、あなたの栄光のためだからです。神は、その祈りには答えられません。それが神に栄光をもたらすなら、神はその祈りに答えられます。もしそれが神に栄光をもたらすならば。私たちは、このことを聖書全体を通して、何度も、特に福音書に見る事ができます。イエスがそれは御父に栄光をもたらすものでなければならないと仰います。「ヨハネの福音書 14 章 13-14 節」を読みたいと思いますので、聖書を開いて下さい。しかしこのように前置きしておきたいのですが、非常に重要です。これはやはり私の祈りの生活を永久に変えてくれたものです。私が祈りに関して、この単純かつ力強い真理を理解した時、全てが変わりました。これです。

「神は、私が自分自身の祈りに答えるのと同じように、私の祈りに答えられます。神が知っておられることを、もし私が知っていたなら。」ですからこんな感じです。私は祈ります。「主よ、どうかお願いします。」神がおられ、あんまり馬鹿馬鹿しい説明にするつもりはありませんが、私が神に祈り願い、「神よ、お願いです。これと、それと、あれをして下さい。」神はこうです。「いやいや。それはしない方がいい。わたしに任せなさい。それはよくありません。」こう言われるのを聞いたことがありますか？私は、神が祈りに答えて下さった事に感謝しています。でも神が祈りに答えて下さらなかったことの方に、もっと感謝することもあります。なぜなら私が祈った通りに、神がその祈りに答えていたら、壊滅的なことになっていただろうから。神はそれをご存知でした。でも私は知りませんでした。「何てこった！あなたは祈りに答えて下さらない。」神は仰います。「その祈りは答えられない方がいいのです。冗談でしょう？」

私たちは「祈りは物事を変える」と言います。もう一歩踏み込んでみようと思います。祈りは祈る人を変えます。私を変えるんです。私は何年もまえから祈りの日記をつけていま

す。10 年ほどやっています。今でこそワードですが、マイクロソフト・エクセルに入っていました。私は祈りのリストを作っていました。祈った日にちを記入する欄がありました。私が祈った祈りのリクエストがあって、祈りの答えがあって、それが答えられた日付がありました。いいですよ。「真似しないでね。」と言われますが、真似してみてください。私はこの祈りのリストを見直してみます。私が祈った祈りの中には、こう思うものもあります。「あ〜神様、本当にありがとうございます。そう祈ったなんて信じられません。神様、あの祈りにあのように答えて下さらなかった事に感謝します。」それで私は削除します。どうりで、ですから、神は答えられたのです。なお、神はいつも祈りに答えて下さいます。私たちはその答えが、気に入らないかもしれません。でしょう？神は 3 つの方法のどれかで答えて下さいますから。それは「YES/はい」か、あ〜そういう時は最高です。「YES/はい」イエス様、主を褒めたたえます。それとも「NO/ダメ」か。なぜ？では、これはどうでしょう。もっと嫌です。「待ちなさい。」待つのは大嫌いなんです。待ちたくありません。待つよりもまだ「NO/ダメ」と言われる方がいい。待たなきゃダメなんですか？待つのは嫌いです。「そこがポイントなのです。あなたが待つのが嫌いなのは知っています。だからあなたに待たせるのですよ。わたしはあなたに、に、に、に、に、忍耐を教えているからです。だからなのです。」

ある人が上手くいったように、「祈りのリクエストが間違っている場合、神は”NO/ノー“と仰います。あなたが間違っている時は、神は”GROW/成長しなさい“と仰います。タイミングが間違っている時は、神は、”SLOW/ゆっくり“と仰います。でも願いが正しく、あなたも正しく、タイミングも正しければ、神は”GO/行きなさい“と仰います。」神のタイミングはいつも完璧です。イザヤ書 30：18 には、”神は待つ”と書いてあります。待たされる。なぜ？だから神はあなたに恵みを与える事が御出来になります。神は遅れる事はありません。早すぎる事もあられません。本当のことを言うと、早いうちにやめておいた方がいい。神のタイミングはいつも完璧です。長年に渡る祈りのリストを見返して、それらの祈りを見ると、あるものについては、何年もの時が経っていました。私はそれらの年月に渡って、その間に神がして下さったことを見ると、こう考えます。「主よ、もしもあなたが時期尚早にそれを私に与えておられたら、今の状況とは全く異なるものになっていたでしょう。」あなたがなさったこと、そのご方法、またそのタイミングは完璧でした。神はうまくなさっている、、、みたいな、、、「当たり前です。わたしは完璧です。覚えていますか？わたしのタイミングは完璧です。」

さて「ヨハネの福音書 14 章 13〜14 節」イエスが語っておられます。おそらくこれは、聖書全体の中で、最も誤解されている聖句の 1 つだと思います。第一テモテ 6 章の「金銭を愛することが、あらゆる悪の根だ」というのと同じくらい、ランキングの上の方にあると思います。それは頻繁に誤引用されます。「お金は全ての悪の根。」そうではありません。お金は中立です。道徳観念はありません。問題は、あなたがお金をどうするかです。あなたがお金を愛するなら、それが諸悪の根源です。イエスの仰る事をよく注意して聞いてく

ださい。「またわたしは、あなたがたがわたしの名によって求める事は、何でもそれをしてあげます。」ここまでは気に入っています。私はこれでいいです。「え？私が求めるもの何でも？」「そうです。」「私が何を求めても？」「はい。でもそれはわたしの名によらねばなりません。」いいですよ。じゃあ、祈りの最後に言いますね。「ああ主よ、ベンツを下さいませんか？イエスの御名によって。」イエスが仰っておられるのはそういう事ではありません。理解せねばならないのは、中東文化ではこんにちに至るまで、現代でも、名前は性質を表します。実際彼らは子どもの性質が分かるまで、名前をつけるのを待ちました。というのは名前が性質だからです。だから私たちもそうしていたら、私は息子たちにエリアスとリーバイという名前をつけなかったでしょうね。彼らが幼いうちは、「探査」と「破壊」と名付けたでしょう。私のアラビア語の名前、ワヒドは性質を表しています。名前は性質です。ワヒドはアラビア語でナンバーワンです。ふふふ、ありがとうございます。1 から 5 までの数は、ワヒド、イトネン、タラタ、アルバア、ハムサです。因みにアラビア語の新約聖書では、イエスは、エル・ワヒドと呼ばれています。どうでしょう？ひとり子、ナンバーワン。文字通り、ナンバーワンです。それが性質です。私は最初に生まれた息子だったんです。ワヒド、名前が性質。お気に召さないですか？これはどうです？これは良いですよ。アブラハムとサラ。アブラハムは 100 歳、サラは 90 歳。神は約束の息子、イサクを与えるちょうど一年前に、アブラハムの前に現れます。そしてサラは笑います。皆さん、その話は知っていますね？祈りのタイミングという話だったら、想像してください。主の御使いがアブラハムのところへ来て言います。「では今あなたの祈りに答えましょう。」アブラハムとしては「あら、それはずっとずっと前の祈りですよ。それは凄く古いハードディスクに保存されているようなものです。大丈夫イシュマエルがいますから。」「いやいや、それじゃダメです。」イシュマエルは肉の予型であり、イサクは霊の予型です。とにかく、主の御使いが来て、アブラハムに言います。「わたしはあなたに息子を授ける。」すると、サラが笑うんですよね？英語ではその名はアイザックと発音します。でもヘブライ語ではイッツアク、アラビア語ではイィトハクです。アラビア語のイィトハク、ヘブライ語のイッツアクの意味を知っていますか？「笑い」です。奥が深いですね。ですから私がアラビア語で言うなら、「私はあなたと一緒に笑う。」あなたはイィトハク、イッツアクという名前を言うたびに、「笑い」とか「笑っている」と言っているのです。これは笑えますね。名前は性質です。ちゃんと言いたいことがあるので、そんな風に見ないでくださいよ。イエスが、「あなたがたがわたしの名によって求める事は、何でも」と仰っているのはこういう事です。「それはわたしの性質と一致していなければならない。わたしの性格、わたしの性質。それは私の性質と相容れるものでなければなりません。」「あなたがたがわたしの名によって、わたしの性質に従って、求める事は、何でもそれをしてあげます。」その理由は、聞いてください。

「父が子によって栄光をお受けになる為です。あなたがたが、わたしの名によって、何かをわたしに求めるなら（2 回目です）わたしがそれをしてあげます。」

つまり、私は祈ります。時には、どうやって祈るか分からない時があります。聖霊が私を助け、力を与え、可能にして下さいます。しかし私が神に何かをお願いしていて、それが最終的に、神に栄光をもたらすものなら、それは確定です。いつ、どのようにかは分かりません。私はただ、主がそうして下さる事を信仰によって知っています。主がそう仰ったからです。それが神に栄光を帰するから。それが神の御心に従うものであり、神のご性質に従うものです。それが神の御名によるものです。私が何を願っても、もしそれがこの前提条件を満たしていれば、確定事項です。絶対にこんな風に考えないでください。また別の機会に改めて扱うべきですけど、神が渋い顔をされ、「ああまた御前か。」と言われるようなことは決して想像しないでください。あなたが御座に近づき、祈り、願う時に、想像できます？そうだったらすごく当惑しますよね。「愛する天のお父様」「何だ〜〜！！」
「ああご都合が悪かったですか？まことに申し訳ありません。」違います。不当な裁判官としつこいやもめの例え話がありますね。彼女は絶え間なく、ただひたすら求め、懇願し続けます。ついに裁判官は、しぶしぶ立ち上がって言います。「この女を黙らせるためには、この女の頼みを聞くしかない。」彼女は正義を求めています。だからといって、天におられる神が、こんな風に言われるわけではありません。「やれやれ、JD を黙らせるには、彼の願うものをあたえるしかない。」違います。例えの要点は次の通りです。
「不当な裁判官がそうするのなら、なおさら、あなたの天の父にあって公正は裁判官は、いかほどでしょう？なおさら、どれほどに。」
これで締めくくります。これが外れすぎていないといいのですが、やってみます。主よ、助けて下さい。これは本当に重要なことですので。
私が祈る時、私は聖霊の力によって、イエスの御名において、天の御父に祈ります。私は地上の父親としての自分自身の目を通して、天の御父を想像します。最後まで聞いてください。私の子どもの一人が私のもとに来て、何かを求めたら、私は、、、彼らをすごく愛しています。そして私は、イエスがこう仰った時のことを考えます。「あなたがたは悪い者であっても、自分の子どもたちには良いものを与える事を知っています。それならなおのこと、」それで、私は心の中で祈りの中で想像します。私には想像もつかないほど私を愛して下さっている愛する天のお父様を、あるいは、、、もう喋れないからそろそろこの説教を終わらせた方がいいですね。私に対する神の愛は、私には理解できない、理解しがたい、測る事のできないものです。ですから私は神の御前に出て、神がこんな風に待っておられるのを想像します。「いいぞ。何が欲しいのですか？何が欲しいの？何でも願いなさい。それがわたしに栄光をもたらすなら、与えましょう。もうあなたのものです。何が欲しいのですか？ガブリエル、ミカエル、来なさい。JD が祈ろうとしています。彼がわたしの名で求めるものは何でも、それがわたしに栄光をもたらすなら、降りて行って、やってしまいなさい。」そして私は祈ります。天のすべてが、天の静寂をもって待機中です。
「JD が祈ろうとしています。しっ！何を求めて来るんでしょう？さあ分からない。」
「主よ、この食事を祝福し、彼らを祝福し、そして、、、」

「それだけ？ああ、悪かったですね。戻って良いです。ガブリエル、ミカエル。またただの食事の祈りです。実習生を呼びなさい。その新人を送って、食事を祝福してあげなさい。」
またふざけすぎだったら、すみませんが、要点は分かりますよね？私たちは、天と地と海と、その中の全てのものを創造された方に自由に近づくことが出来るのです。そしてその御方は私たちに仰っています。私たちは何でもその御方に求める事ができると。それなのに、私たちはそうしません。
お父様、祈りの力に感謝します。祈りに感謝します。そして私たちが、いつでもあなたに近づくことが出来、何でも願えることに感謝します。主よ、私は祈ります。今日私たちがここを去る前に、祈りの生活に関して、私たちの中に変化があることを祈ります。それが私たちを変え、私たちの祈り方を変えますように。もっと大胆になれますように。私たちが折に適った助けを受けるために、確信をもって大胆にあなたの恵みの御座に近づき、何でも求めるために。つまりどんなに非常識なようでも、どんなに突飛なようでも、あなたの御前に出て、奇跡的な癒しを求める大胆さ。不可能な事を願うために。あなたに何か難しい事があるでしょうか。私たちが願わないのは、あなたがなさらないと思うから？
それがあなたに栄光を帰すなら、主よ、あなたはそれをなさると仰いました。それは私たちのものです。何でも願うものを与えられます。主よ、特にここにいるひとや、オンラインで見ている人の為に祈ります。これまではこのようにあなたの御前に出て、あなたに願っていないなら、主よ、今日、彼らが確信をもって大胆に進み出る事を祈ります。傲慢に、ではありません。自らの自信ではなく、あなたへの確信、彼らに対するあなたへの愛への確信。彼らがあなたのご栄光のために、あなたの御名で何でも求めますように。そうすれば、あなたは与えられます。イエスの御名によって。アーメン、アーメン。

メッセージ by JD Farag 牧師カルバリーチャペルカネオヘ
http://www.calvarychapelkaneohe.com/
Calvary Chapel Kaneohe47-525Kamehameha Hwy. Kaneohe, Hawaii　　筆記 JB